

◆事業を通じて、持続可能なモビリティ社会の実現・豊かなモビリティライフの創造に寄与する

価値創出

当社の製品・サービスを通じて顧客や社会に対して提供するユニークな価値

1 持続可能なモビリティ社会の実現に寄与する



2 豊かなモビリティライフを支え、創造する



価値創出の基盤

価値創出を支える基盤

3 多様な人財の挑戦と働きがいを創出する



4 次世代モビリティの技術革新を続ける



リスクマネジメント

価値創出の実現にあたり全事業活動において疎かにせず責任をもって遂行していく事項

5 全企業活動における脱炭素を追求する



6 サプライチェーンのサステナビリティを促進する



7 モノづくりの根幹（品質と安全性）を守り抜く



◆中長期の価値創出に向けて

価値創出シナリオ

モビリティの環境負荷低減

- モデルチェンジごとの低燃費性能のグレードアップ
- 軽量化
- EV対応商品強化

安全・安心なモビリティ

- 製品ライフとWET制動の両立
- 摩耗診断サービス

マテリアリティ

1



[持続可能なモビリティ社会]

- 拡大・多様化するEV市場 -

マテリアリティ

2

多様なモビリティライフ

【走りの愉しみ】

独自のEV対応戦略

- SUVやピックアップ車のEV化に対応する技術開発
- 北米市場動向を捉え、差別化したSUV・CUV商品開発

E
S

支える基盤

マテリアリティ

3

多様な人財の挑戦と働きがい

- ・多様な人財が有機的に協働し、働きがいを持って成長・活躍する仕組み
- ・個性と質と能力を極める育成システム



S

マテリアリティ

4

次世代モビリティの技術革新

- ・環境や電動車特有の技術確立
- ・環境配慮技術 + 嗜好性の融合
- ・新素材・サステナブル材料



E

◆創出する価値を守るためのリスクマネジメント

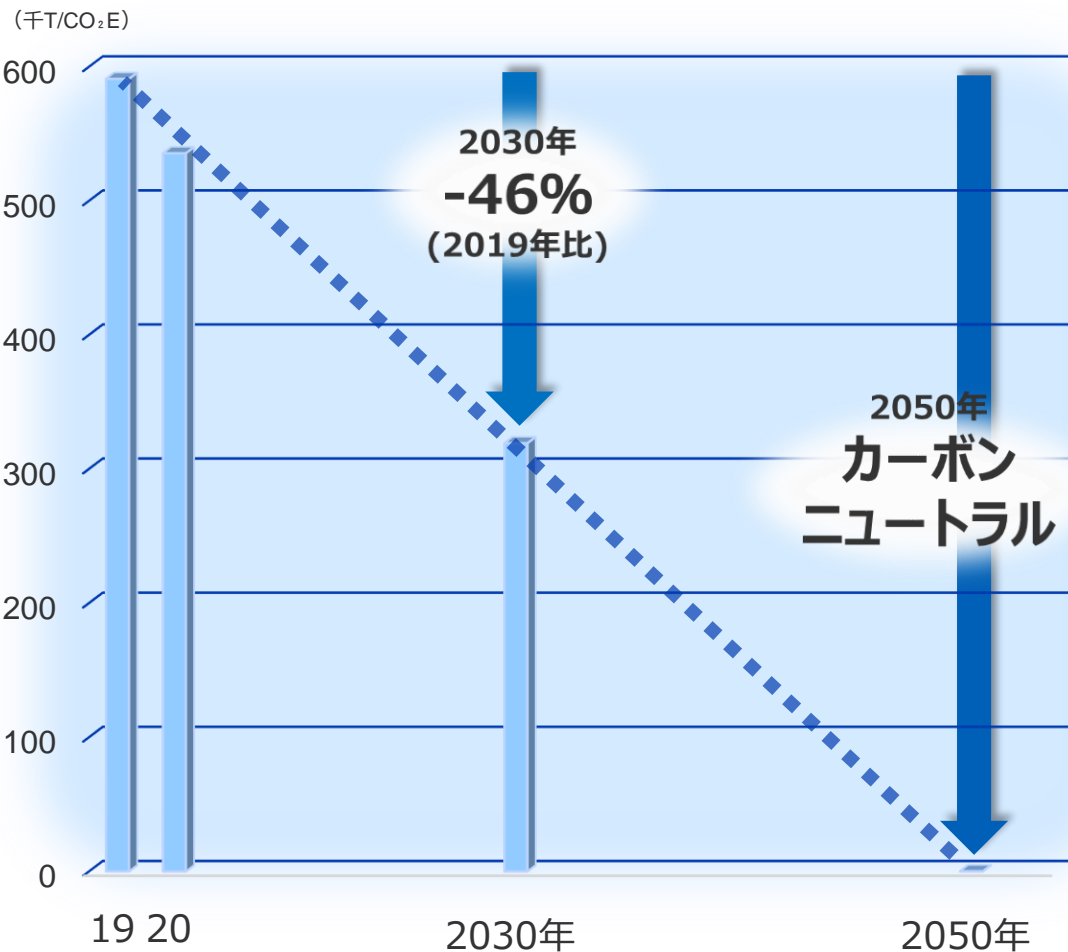
マテリアリティ

5 【脱炭素】

Scope1+2

【 中長期CO2排出削減目標 】

2030年に2019年度比46%削減、2050年カーボン・ニュートラルをめざす。各機能が連携し、エネルギー調達先とも協働しながら脱炭素化を進める。



生産

- ・エネルギーマネジメント
- ・省エネルギー
- ・工法、設備の更新

調達

- ・フレキシブルなエネルギー調達

コーポレート/環境

- ・環境投資基準/インターナルカーボンプライシング
- ・再生可能エネルギー導入計画

DX

- ・データ活用による効果的・効率的な取り組み



◆創出する価値を守るためのリスクマネジメント

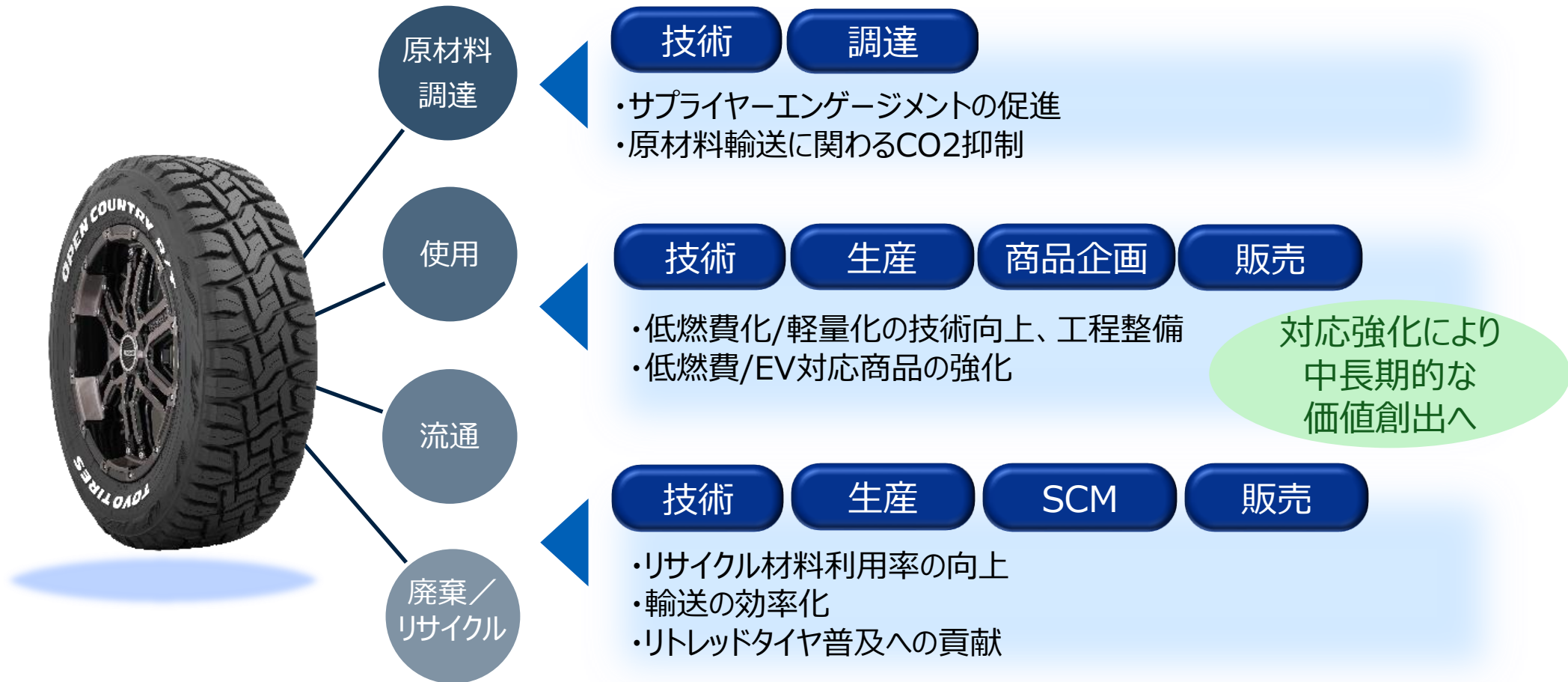
マテリアリティ

5 【脱炭素】

Scope3

【 タイヤ1本あたりのCO2排出量 】

2030年時点において2019年度比20%の削減貢献をめざす。
技術革新/商品強化、サプライチェーンでの連携を進める。



◆創出する価値を守るためのリスクマネジメント

マテリアリティ

6 【サプライチェーンのサステナビリティ】

原材料調達における環境・社会リスクに対応し、健全で強靱なサプライチェーンをつくる。

調達

サプライチェーンマネジメントの強化

- ・グローバルでのサプライヤーの一元管理とサプライチェーンの可視化
- ・サプライチェーンの環境・社会リスク評価にもとづいた責任ある原材料調達の促進

持続可能な天然ゴム調達

- ・GPSNR*の原則と「持続可能な天然ゴムの調達方針」に則った、サプライヤーとの協働による持続可能な天然ゴムの利用促進

*) GPSNR : 持続可能な天然ゴムのためのグローバルプラットフォーム
Global Platform for Sustainable Natural Rubberの略



マテリアリティ

7 【品質・安全性】

バリューチェーン全体で製品の品質・安全性を高める。

品質

生産

技術・DX

販売

- ・工程内品質の可視化によりプロセス保証体制の確立
- ・市場末端までトレーサビリティが可能な個体管理システム
- ・ユーザー体感型安全啓発プログラムの充実

